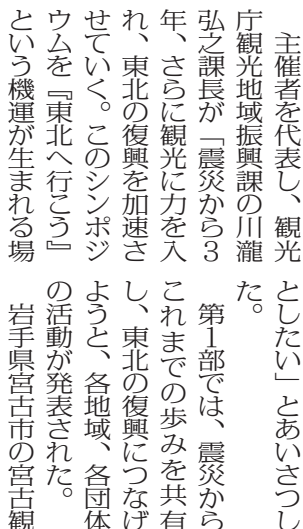


東北観光応援します!! ～東日本大震災から3年～シンポジウム

観光庁や東北6県、東北観光推進機構などが主催する「東北観光応援します!!」東日本大震災から3年「シンポジウム」が9日、東京都千代田区のベルサール半蔵門で開かれた。観光に携わる多様な関係者の発表やパネルディスカッションで、観光を通じた復興支援の取り組みを振り返り、復興の先にある東北観光の新たな可能性を探った。



を推進したい」と語った。

を推進したい」と語った。生統括リーダーの白井宏福島県郡山市出身で、美氏（早稲田大4年）は振興に向け、東北の旅館「女子の暮らしの研究」が連携して情報発信や受け入れ整備を進める構想所」代表を務める日塔マの責任を自覚し、今後もの推進に意欲を示した。

調。山形県天童市の天童温泉はほえみの宿溜の湯事務の山口敦史氏（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部部長）は、東北のインバウンド振興に向け、東北の旅館が連携して情報発信や受け入れ整備を進める構想の推進に意欲を示した。

第2部では、「新しいに4人が意見を述べた。も続けたい」と話した。

地域住民や旅行会社と連携した視察ツアーも手掛ける。「福島」の未来を考える仲間が増えることを願って今後もツアーを続けていきたい」と語った。寄付を資金に47都道府県を資金に47都道府

田直人氏（静岡大1年）もマイクを握り、「最初

は個人の自転車旅行で被災地に入ったが、これで『東北を見た』と言えるのか不安になってプロジ

エクトに参加した。現地

東北観光のカタチ」をテーマにパネルディスカッションを行った。復興関係の情報を発信している「東北復興新聞」の発行人、本間勇輝氏を進行役として、被災しながらも再起し、JTＢ旅行事業本部国内水産加工品の製造・販売などを手掛ける齊吉商店（宮城県気仙沼市）の専務、斉藤和枝氏は、地域内の平野利晃氏は、地元流通型の旅行商品「地恵のたび」の復興支援・防犯学習プログラムなどを紹介し、「旅行者からは地

ことがうれしいという気持ち
持ちが地域に芽生えたこと
とが大事。子どもたちが
東北に残り、次世代の東北
観光を受けとめられよう
に取り組む」。

人材育成などを任うN



氏史敦口

船体騒音対策など、才産
業などと観光業の連携に
取り組み、地域の復興の
活力にしている。

行会社が手を携えて取り
組むことが大切。そこに

FC法人・十和田専大速
郷づくり大学（青森県十
和田市）の生出隆雄氏は、
地元の高校生にガイド研



池田伸之氏

務局長の池田伸之氏が、東北の観光需要は震災前の水準に戻っていないとして、沿岸部の需要喚起、冬季の需要喚起などに継続的に取り組む姿勢を強

パネルディスカッション



船送り』などの活動を続けたことで漁師との関係を築くことができた。地元産業と観光客の接点となるツアー、両者が混ざり合う場づくりを今後

JR東日本鉄道事業本部営業部次長の高橋敦司氏は、昨年運行を開始した、八戸線の「走るレゾナンス」列車「TOHO」

世界遺産登録　十和田湖
周辺の景観整備などの夢
を持って進みたい。土台
となる人材を育て、地域
を次世代に引き継いでき
たい」と語った。



白井宏美氏



山口敦史氏



Treasureland
TOHOKU
JAPAN 日本東北

統一ロゴマーク

東北に外客を 統一ロゴ作成

東北観光推進機構

東北観光推進機構はこのほど、東北6県と新潟県への訪日外国人旅行者

の誘致拡大を目指し、海外プロモーションなどに活用する統一のロゴマークを作成した。

震災を乗り越えて飛躍する東北をフェニックス（不死鳥）の図柄に託し、「宝ものがたくさんある土地」を意味する「Treasureland」